一般会議報告書

開 催 日 時	令和６年　２月２６日（月）午後１時３０分 ～ 午後２時４６分					
会　　場	八雲町役場３階　議員控室					
団 体 名 等	落部漁業協同組合					
参 加 者 数	３名					
出 席 議 員	安藤辰行、大久保建一、倉地清子、関口正博、三澤公雄、宮本雅晴、横田喜世志、赤井睦美、佐藤智子、斎藤　實、能登谷正人、黒島竹満、千葉　隆					
役 割 分 担	司会者	関口	記録者	倉地	記録者	
会議のテーマ	・落部漁業協同組合整備支援について					
意見交換等	別紙のとおり					

上記のとおり提出します。

令和６年　４月　２日

八雲町議会議長　千　葉　　隆　　様

記録者　　倉　地　清　子

別　紙

〇落部漁業協同組合整備支援について

〈団体〉
　当組合の事務所整備に関わる件に関して懸念されている事項を何点か示されている中、議員の皆様、町民の皆様の理解を賜りながら、運用に関して関係者と相談しながら有効に活用できるようにしたいと考えている。

〈議員〉
　いつくらいから建替えの話があったのか

〈団体〉
　建替えの話は10年位前からで、当組合の一番の課題ということで、組合員も認識していて、当時ホタテの水揚げも順調に推移していた時期であったが、その後の大量へい死等があって積立金の足踏み状態が続いた。
　耐震構造もなく、漁業者として様々な生産基盤、様々な拠点として建替えについて協議してきた。今回、事務所の建て替えにあたって、町の支援をいただけないか申し入れをした。

〈議員〉
　組合員以外にも利用する施設ということだが、元々そのように使っていたのか。

〈団体〉
　元々組合員以外の活用があった。漁業関係者も使うが、それ以外の方も活用してきた経緯がある。何年か前から小中学校の「ふるさと学習」としての活用もしている。
　平成27年に整備した際、市場の競りの風景を展望できるデッキを併設しているが、今回の建物とリンクさせながら、漁業の生産活動を身近に感じてもらえるような施設にしていきたいと考えている。
　砂浜のほうもアサリだとか、岩場のほうのふのりだとか、漁業権を一部開放して、町内の方であれば申込みをしたうえで採取できるようなかたちになっている。
　海のものや山のものといった地元の産品の直売をやりながら、全体をフィールドとした活用をしていきたい。

〈議員〉
　直売だけなのか、飲食を伴うようなことは考えているのか。

〈団体〉
　直売に関しては、どの程度集客があるのかも含めて探っている段階。国のほうでも漁港の使いかたに関して規制を緩和していく中で、施設を活用しながら、売店・飲食を伴った活動を考えていきたい。

〈議員〉
　外国人労働者に対して核となる施設は必要だと思うが、そういった予定はあるのか。

〈団体〉
　外国人労働者は200人くらいいて、そのうち漁業者は140～150人くらいいるが、今までも漁協で施設提供して技能実習の試験をやっている。定住者も出てくると思うので外国人コミュニティや地域の生活習慣の勉強などでも活用していければと思う。

〈議員〉
　実施設計は組合で独自資金でやられたと思いますが、総工費はいくらになるのか。

〈団体〉
　発注は３月末であるが、３月10日頃には総工費が出る予定。

〈議員〉
　災害時に利用する予定の２階から伸びる道路はどうなるのか。

〈団体〉
　常任委員会で出された意見を水産課長から聞いたが、津波の避難施設としての位置づけできないということで、いらないのではないかという意見も出ていたのと、事業費もそこそこかかるということで、現在保留となっている。
　東日本大震災の時も漁協事務所の１階部分も水が浸かった中、無線で沖合に避難している漁船と連絡を取る職員が最後まで事務所に留まることになるので、そういった用途の中で、多少お金がかかっても付けるべきなのかなということで、内部で協議しているところである。

〈議員〉
　学校関係、授業等での開放や、川向の会館がなくなるということから、会館機能についての考えは。

〈団体〉
　川向の会館は廃止方向であるが、川向地区も以前から利用してくれていたため抵抗はないと思う。
　学校とも「ふるさと学習」のメニューについて話し合っている。この３月には稚魚の放流を小学３年生がやる予定であるが、放流して帰ってくる年次である６年生になったときは、帰ってきた鮭を活用して加工体験をしてみるというような活動もやっている。

〈議員〉
　施設が地域住民に親しみやすい環境になるということは、不特定多数の方が出入りすることとなるが、金融部門などのセキュリティについてはどう考えるか。

〈団体〉
　金融部門に関してはセキュリティは重要だと認識している。外部から入れないようなかたちにはなっている。玄関はお客様、職員は裏から入るが、暗証番号で入るように考えている。

〈議員〉
　費用対効果についてはどう考えているか。

〈団体〉
　費用対効果ということでは、町の税収では固定資産が増額される。もうひとつは漁業振興の一翼を担う施設ということで、漁業者の福利厚生も充実して、労働環境も改善することによって漁業が益々振興していくということからの効果が期待される。

〈議員〉
　建築の際には町内の業者さんを積極的に活用していただきたい。

〈団体〉
　町内業者をというのは、補助金があってもなくても組合員の共通認識であります。発注形態にしては町の指導も受けながらやっていきたい。

〈議員〉
　漁船漁業は苦しい思いで経営されてるんだろうと思うが、落部として漁船漁業者を何とかしてあげたいという部分での活動は考えているのか。

〈団体〉
　組合長　副組合長が先頭になって漁船漁業者の窮状をなんとかしなければと動いている最中である。その一つとして、ホタテ業者が中心の権利を漁船漁業者にも分配できるような仕組みがとれないかと協議をしているところである。

〈議員〉
　ＡＬＰＳ処理水の関係で中国への輸出が停止している状態で、全道、全国にその影響が及んでいるが、落部ではどのような手立てを持っているのか。

〈団体〉
　福島第１原発の時に、ホタテがとても影響を受けると報道されているし、実際そうである。そうした中で、ホタテといえども、オホーツクのホタテと噴火湾のホタテは似て非なるものであることを、我々は訴えてきた。オホーツクは産卵した後の、卵がついていないホタテを出荷している。噴火湾は卵が張った時に出荷する。国が言うには貝柱のみを好んで食べる欧米に輸出先転換ということであったが、抱卵した我々のホタテは中国人しか食べていないというが実態なので、輸出先転換と言えども、我々とは異なる世界の話であると整理している。そうした中で違う国に輸出できるようにしている。ただ卵付きのホタテはどうしても大きな消費地が中国であり、これをインドネシア、シンガポール等で食べてもらえるような活動をしているのが実態である。

〈議員〉
　在庫がたまってしまう状況はあるのか。

〈団体〉

今後そうなっていくでしょうし、例えば落部と八雲の出発点は同じだが、ボイル一辺倒の集中出荷を避けるために、八雲は三年貝や残存貝にシフトしたりこしている。これ自体は広い海があってこそできる仕事で、我々のように狭いところでやっている場合は春に集中出荷しなければならないということで、ある程度、住み分けしてきたが、現在、地元の加工業者と相談をしながら円滑な流通を探っている最中である。

〈議員〉

組合の借金は将来の漁業者の負担になる。少ない海面で助け合ってやっている状況を理解していただきたい。